**2016年度　ロシア・ユーラシア研究コース　ゼミ紹介**

**原求作ゼミ**

|  |
| --- |
| 演習（古代ロシア語）1・2　：火曜3限 |
| ①古代ロシア語の講読と研究発表の二本立てで進める。  ②古代ロシア語講読は、担当者作成のテキストを使用。春学期は輪読形式、秋学期はグル―プ発表形式。  ③研究発表は個人ベース。古典作品、古典文法にこだわらず、自由にテーマを選んでよい（フォークロア、宗教、芸術などのテーマが過去にはあった）。  ④9月に合宿を予定。  ⑤毎年「ゼミ報告書」を作成。 |

**秋山真一ゼミ**

|  |
| --- |
| 演習（ロシア語学）1・2　：水曜4限 |
| 1. ロシア語学・一般言語学文献（ロシア語）の講読と研究発表の二本立てで進める。 2. 講読テキストは教員がコピーを配布するか、Moodle経由で学生がダウンロードする。春学期は輪読形式が主体、秋学期はグル―プ発表形式が主体。 3. 研究発表は個人で行う。他学生との共同研究は認めない。言語学に関連があれば、自由にテーマを選んでよい。 4. 9月に合宿を予定。 5. 卒業論文および卒業年次生のゼミ論文は「ゼミ論集」に掲載される。 |

**村田真一ゼミ**

|  |
| --- |
| 演習（ロシア文化）1・2　：水曜3限 |
| 1. ゼミが扱う主な研究テーマは、ロシアの文化・芸術・思想・文化と社会の関係とする。 2. 授業は、ロシア語によるテキスト輪読（短編ないし戯曲と、ロシア文化に関するエッセイ）と研究発表（グループ・個別）の二本立て。 3. 輪読の教材については、春学期は授業担当者が指定し、秋学期は報告担当者が自分の研究テーマにあわせて自由に選ぶ。 4. 研究発表の形式は、春学期はグループごと、秋学期は個別報告とする。 5. 春学期は、個別研究テーマに関する読書レポートも毎月提出する（2,000字）。 6. 9月後半に研究成果報告会（合宿）を行ない、ロシア文化を研究する他大学の学生や院生などと切磋琢磨し合う機会とする。 7. 春学期の終わりに研究レポートを提出し、年度末に卒論・ゼミ論をまとめ、「研究論文集」を作成する。 8. ゼミの詳しい進め方を開講時に説明するので、受講希望者は必ず出席すること。 |

**井上幸義ゼミ**

|  |
| --- |
| 演習（ロシア文学）1・2　：火曜3限 |
| ①ロシア文学史の講義から始め、春学期は受講生自身による詩作品の輪読発表と研究発表、秋学期は散文作品（小説）の輪読発表と研究発表を行う。  ②輪読発表も研究発表も、担当者は事前にレジュメを用意し、ゼミ生に配布する。  ③受講者数によっては、輪読はグループ発表形式にすることもありうる。  ④研究発表は、作品論（作品分析、作品の受容の歴史など）、作家論（作家の評価の変遷、作家の時代的位置づけなど）などテーマや手法は受講者の自由とする。   1. 夏休みにゼミ合宿を行う予定。 |

**安達祐子ゼミ**

|  |
| --- |
| 演習（ロシア経済）1・2　：火曜2限 |
| 1. ロシアを中心に、旧ソ連・東欧地域の経済・ビジネスに関する研究文献の輪読、文献報告、ディスカッション、レポートおよび論文の中間報告などを行う。 2. ゼミ生それぞれの選択したリサーチのテーマにそった卒論（またはゼミ論）の作成準備を進める。   ※参加希望者は、初回授業に必ず出席してください。 |

**LATYSHEVA　Svetlanaゼミ**

|  |
| --- |
| 演習（ロシア語通訳・翻訳研究）1・2：木曜3限 |
| 翻訳、通訳に不可欠な正確性(адекватность)に達するために、正しい文法の知識及び豊かな語彙だけが足りないのです。様々な日本語の文章を正しくロシア語に伝えるには、ロシア語の書き言葉と話し言葉のスタイルのニュアンスを、深く理解しなければなりません。さらには、様々なテキストを訳す時、それにかかわる文化的、政治的、歴史的などの背景も理解しなければならないです。このセミナーの参加者が興味を持っているロシアにかかわる様々なテーマを取り上げて、多様な資料を利用しながら、学生のロシア語の表現力を上達させることを目的にします。それは、主に、自分の意見を正しいロシア語で表現し、口頭で述べたり、文章にしたりすることです。さらに、ロシア語のテキスト、または、相手が述べることを正しく理解し、それに反応する能力をもつことです。なお、総括として、日本語の文を正確にロシア語で伝えることにおけるいろいろな問題を研究して、翻訳と通訳能力を磨き上げます。また、卒業論文だけでなく、翻訳のプロジェクト又はプレゼンテーションは、コースの総括とすることができます。 |

**MUKHINA　Varvaraゼミ**

|  |
| --- |
| 演習（ロシア社会）1・2　　：木曜4限 |
| 1. この授業の目標は、社会学の基礎知識を得つつ、ロシア社会について学ぶことです。 2. ロシアの人口構成、教育制度、家族形態、ジェンダー関係などのテーマを扱い、それに関する研究文献の輪読、ディスカッションを行い、ゼミ生による文献報告を実施します。 3. 春学期末に論文の中間報告、秋学期に最終報告を行います。 4. 授業で扱う言語を日本語と英語とします。 |

**上野俊彦ゼミ**

|  |
| --- |
| 演習（ロシア政治・外交）1・2　：木曜4限 |
| ①科目サブタイトル  旧ソ連・東欧地域の政治・外交・国際関係・歴史についての演習  ②講義概要  旧ソ連・東欧地域の政治・外交・国際関係・歴史などについて興味・関心のある学生が集まり、各人が自主的に研究テーマを決め報告・討論を行います。  ロシアでは、2016年9月18日（日）に、連邦議会国家会議（以下、「下院」という）議員選挙の投票が実施されることになっています。そこで、今年度の演習では、各人の個別研究とは別に、とくに、現代ロシアの政党、下院選挙の実施、選挙結果などについての共同研究を実施したいと考えています。  教員による講義およびテキスト・資料の輪読は、上記共同研究に関連する内容が中心となります。  なお、本演習に参加する学生は、旧ソ連・東欧地域の政治・外交・国際関係・歴史などについての基本的知識を得るために、「ロシア政治・外交A-1」および「ロシア政治・外交A-2」を履修することを推奨します。  ③到達目標（授業の目標）  旧ソ連・東欧地域の政治・外交・国際関係・歴史研究の基本的手法の体得および旧ソ連・東欧地域の政治・外交・国際関係・歴史についての基本的理解をもとに、レポートまたは卒業論文の作成のための研究計画書を作成します。④授業時間外（予習・復習等）の学習  テキスト・資料の読解、研究敬作書の作成、報告の準備を適宜おこないます。  授業のほか、合宿研修を実施します。  ⑤評価基準・割合  出席状況30.0％　授業参加30.0％　レポート40.0％  その他、授業参加には、合宿研修への参加も含みます。  ⑥テキスト  輪読用のテキスト・資料は原則として教員が準備します。  ⑦参考書  上野俊彦「第二次プーチン政権下のロシア政治」（溝端佐登史編著『ロシア近代化の政治経済学』文理閣、2013年、所収）  上野俊彦「下院選から大統領教書、そして改革へ？－2011年12月下院選に対する『不正のない選挙のために』運動の意味とその影響－」（日本国際問題研究所編『ロシアにおけるエネルギー・環境・近代化』日本国際問題研究所、2012年、所収）  上野俊彦「ロシア連邦の下院選挙制度」『日本選挙学会年報　選挙研究』2015年7月号 |